

2025.5.17(土) SRM学会全国大会

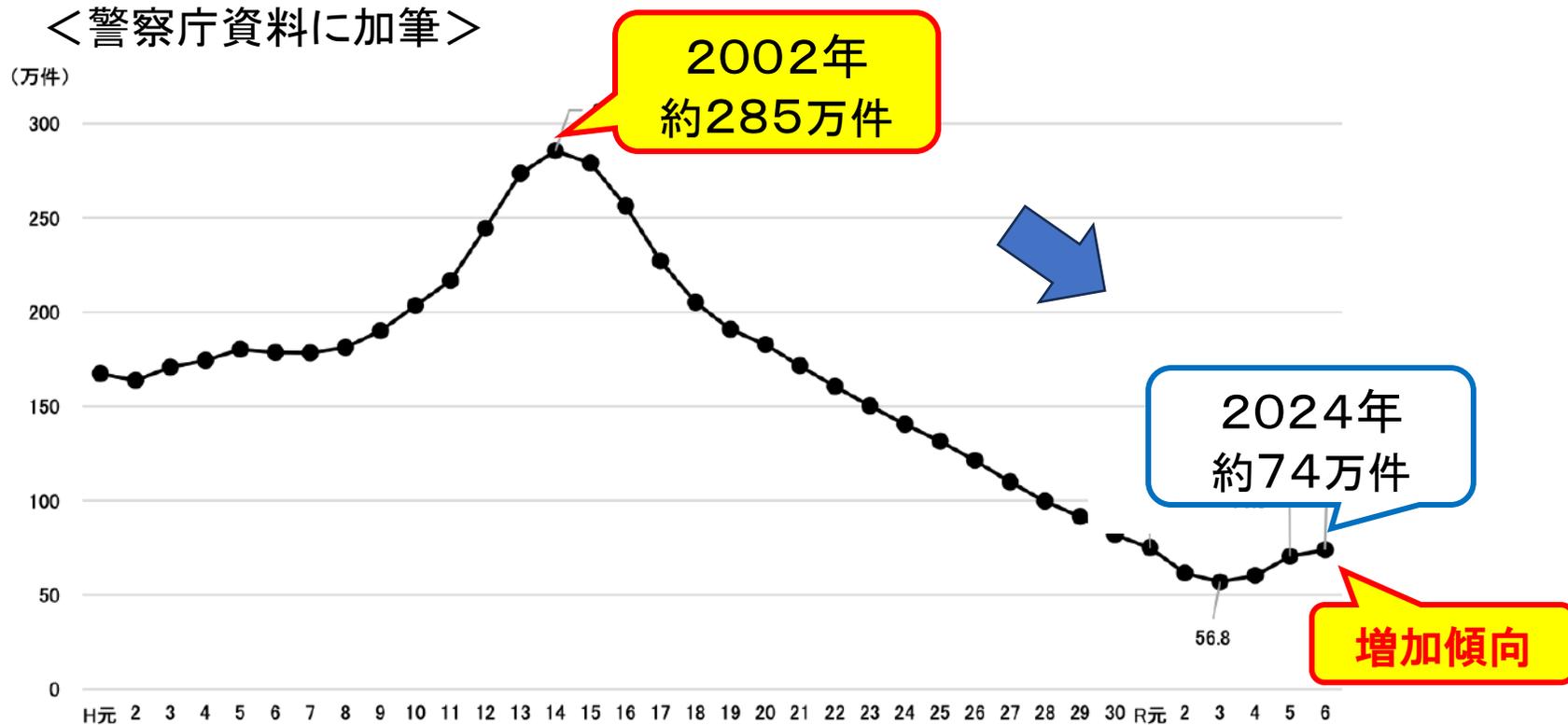
最近の「犯罪リスク」情勢

—主な犯罪の発生概況と対策の課題—

松下 義行(元大阪府警察)

刑法犯罪の発生概況

— 刑法犯認知件数の推移 —



2003年1月
< 退職時の新聞記事 >

⇒ 安心安全(「体感治安」)よくなった? アンケート結果→治安は「悪くなったと思う」が76.6%
懸念される問題点も少なくない。

問題点1

外国人犯罪グループによる万引きや金属盗等の増加

- ▶ 国外転売目的での**大量窃取**事犯が増加

—ドラッグストアの化粧品や医薬品等が特に狙われる—



ベトナム人グループによる大量万引き事件押収品

<警視庁公表画像>



- ▶ 組織的な**金属盗等**が各地で多発

—太陽光発電事業での深刻なリスクに(昨年**7054件**発生)—



カンボジア人らによる太陽光発電施設の銅線盗事件押収品

<群馬県警察公表画像>



⇒ “**無防備**”は狙われる。防犯対策と在日外国人犯罪組織への**対策強化**が必要。

問題点2 凶悪・重要犯罪の情勢

	2002年	2012年	2024年
全刑法犯（件）	約285万	140万	74万
殺人	1396	1032	970
強盗	6984	3681	1370
放火	1830	1081	758
不同意性交等 （強姦）	2357 （強姦）	1266 （強姦）	3936
略取誘拐等	251	190	588

無差別殺傷事件等特異事件が不安感に

「トクリュウ（匿名・流動型犯罪グループ）」、
SNSでの「闇バイト」による事件が頻発
⇒「仮想身分捜査」の運用に期待。

2023年法改正以降、「不同意性交等」に

幼児等への猥褻目的の拉致が増加

<警察庁統計資料から抜粋>

⇒犯罪リスクの認識と防犯対策は「生活の必要コスト」。

問題点3 「特殊詐欺」や「投資・ロマンス詐欺」被害の増加

▶電話による「特殊詐欺」が件数も被害額も過去最悪

「特殊詐欺」	2017年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
認知件数	18,212	13,550	14,498	17,570	19,038	20,987
被害額(約)	394	285	282	370	453	722 (億円)

<警察庁犯罪統計資料から抜粋>

▶SNSによる「投資・ロマンス詐欺」の高額被害が急増
10,164件(前年比2.6倍増)、被害額約1,268億円(前年比2.8倍増)

▶SNS等で「かけ子」等を集め組織的に敢行、生成AI利用等巧妙化
フィリピンやカンボジア、ミャンマー等東南アジアに拠点



<ミャンマーの巨大拠点>

⇒被害者対策が浸透していない。被害に遭いやすい層への効果ある対策の強化が必要。
犯罪対策閣僚会議で「総合対策」強化を決定したが、増加に歯止めがかかっていない。

問題点4

サイバー空間での被害やサイバー攻撃の深刻化

- ▶ SNSによる誹謗中傷や業務妨害・選挙妨害等の被害が拡大・深刻化
削除要請等の「情報流通プラットフォーム対処法（「プロバイダ責任制限法」改正）」の施行（4.1）
- ▶ 各種のサイバー攻撃、身代金要求型の「ランサムウェア」が依然多発

— 企業・団体等のランサムウェア被害報告件数＜警察庁資料から抜粋＞ —

2020年下期	2021年	2022年	2023年	2024年
21	146	230	197	222

64%が中小企業

巨額の身代金や拒否による長期に及ぶ事業への障害など被害が甚大
ランサムウェアは国外からのものが多く、防御・対策が困難で未だ脆弱

⇒ 警察庁直轄の「サイバー特別捜査部」及び都道府県警察の充実・強化、国際間協力の進展、
「サイバー対処能力強化法」及び関連法案の成立と運用に期待したい。
誹謗中傷等に対する効果のある法改正や取締り強化等刑事政策の早期進展を望む。

おわりに ; 犯罪のメカニズムと対策

原因・動機

恨み、利欲、性的欲望、衝動的、**自暴自棄**等

要因対策

- * 「生活破綻者」等に対する救済対策
- * 「児童虐待」対策の強化
- * 「組織的犯罪」の壊滅

被害者選定

- ▶ 目的性
- ▶ **容易・安全性** ~ 無防備、弱い者を狙う

防犯対策

狙われない
平素の防犯対策

狙われた時の
被害を防ぐ対応

犯行・被害時の
被害最小化対応

「園児多数殺害目的侵入事件」現場
(2021年宮城)

⇒特に学校等では**3つの防犯対策**が必須。



<池田小事件TV映像>

—ご清聴有難うございました—